

飛躍への土台づくり

金属加工業、カトウ（川崎市中原区上平間、☎044・511・5518）が、勝ち残りをかけた経営改革を進めている。アルミ溶接を得意とする創業67年の町工場だが「今まで変えてこなかったこと」に着目し、それらを一つ一つ見直し、飛躍への土台をつくっている。



工の技術も蓄積できる“一石三鳥”の結果をもたらした。

■技術のマニュアル化も
改革を断行する中で、反発や職人の退職もあったが、業績は徐々に改善。若い人材も増えた。そこで次は「技術の見える化」に踏み切った。

職人の技術から生まれる製品は、人が変われば続かない。「いつ誰がやっても同じもの。顧客から求められることは、常に均一で安定した品質です」と加藤社長。手作業でやっていた寸法測定には、3Dスキャナーを導入した。

また、機械や素材ごとに微妙に異なる加工条件や設定数値が、誰にでも分かるように「マニュアル化」。それを機械に貼り付けた。「やるべきことは、まだまだ数多くあります」と加藤社長。業績が回復している今だからこそ、改革の手を緩めない。



ムダの排除
マニュアル化

3代目の加藤欣吾社長が父親からバトンを受け継いだのは6年前。当時は平均年齢60代、昔気質の職人集団だった。しかし、職人の技術はお客さんから評価されるのに業績は落ち込む。なぜか。

考えた末の答えは、過去から脱却し、基本的なことから見直すことだった。着手したのは、製造現場でのムダの排除だ。「もったいない」や「次回のために」という理由で、工場では端材一つでも取っておく傾向があった。「職人は作ってなんぼ、材料と道具がなければ仕事ができない」という先代の考えもあったからだ。

しかし、在庫＝おカネ。整理すれば工場にスペースが生まれ、安全確保にもなる。そこで「断捨離」を断行した。その結果、職人20人弱の現場から、ハンマー100本以上、シャコ万力で数百本のムダが見つかった。

■内製化は一石三鳥

内製化も進めた。高い外注費は収益を圧迫する。自社でやれば納期が守れるし、技術も残る。「できることはやろう！」との加藤社長の号令で、断捨離により空いたスペースに工作機械を新規導入。これにより、外注費の削減や納期の徹底、精密加工

カフェがライバルの コワーキングスペース

カフェがライバルです。JR線・横浜駅きた東口から徒歩5分のポートサイド地区に、横浜の海やベイブリッジが一望できるコワーキングスペース「Bangarrow（バンガロー）」がこのほどオープン。順調に営業している。

横浜市神奈川区栄町のオフィスビル・横浜クリエーションスクエアの16階。老舗のインターネットプロバイダー「かもめインターネット」を運営するネットフォレストが新規事業として始めたものだ。

フリーランサーやオフィスを持たない起業家、創業予備軍が、デイリーの仕事場として使えるほか、横浜駅近くで商談や会議をしたい人など、誰でも利用できる。

リーススペース45席、会議室4部屋。「カフェがライバルです！」（三上晃弘店長）と言うように、おしゃれで開放的な空間を演出した。IT企業が運営するコワーキングスペースらしく、超高速の安定したWi-Fiネットワーク（280Mbps）が使えるのもウリだ。

スポット利用したい場合は1時間600円、2時間1000円、1日2000円。使い放題の月額利用料は1万6200円（入会金は別）。営業時間は平日の午前10時～午後9時まで。

三上店長と利用者のコミュニケーションを通じ、利用者同士をつなぐことも可能だ。「そこから新たなビジネスが生まれることも期待しています」（三上店長）。また、利用者と運営会社・ネットフォレストが連携した事業を行うことも視野に入れている。



創業者 支え続けた半世紀

プラスチック業界に革命を起こそうと、生涯現役で研究開発に打ち込んだ日本油機（相模原市中央区東淵野辺、☎042・757・6681）創業者の故・市川十四男前会長の妻・市川美代子さんが、このほど自伝『流水 花筏（はないかだ）』を自费出版した。

プラスチック成形機のスクリーンを設計する同社の会長も務める美代子さんは、現在85歳。九州で生まれ育ち、日本グラウト工業（現・日本基礎技術、東証一部）に入社し、社会人になってからは仕事と茶道に没頭。47歳で市川前会長と知り合い結婚し上京した。以来、市川前会長のプラスチック一筋の人生を裏方として支えることになる。

1987年に日本油機が設立され、



市川美代子会長が本出版

美代子さんは専務として資金繰りや営業に奔走した。ときには現場を手伝うこともあった。

モノづくりの世界では女性が極めて珍しかった時代。道のりは決して平たんではなかった。それでも「いつでも一生懸命な気持ちを持ち続けた」という市川さんは、出会いに恵まれ、それとともに会社も成長していった。

夫の市川前会長は晩年、もはや不要とされてきた半世紀前の成形技術「ベント式」に再び目を付け、それを改良。

そしてプラスチック成形の効率を飛躍的に高める“温故知新”の技術を編み出し、業界から注目された。美代子さんはその想いを受け継いで、今も「ベント式」の普及に奔走している。

本を出版した美代子さんが若い世代に伝えたいことは「常に誠実、そして

そして「若い人たちには希望を持って生きてほしい」と話している。

日本油機

五輪見据え外国人に

社葬について

社葬をするには準備が大事

超精密模型 職人が製作

おみやげ用 ヨットが好調

超精密模型メーカー、宝船堂（藤沢市鶴沼明神、☎0466・27・6564）が製造販売する2020年東京五輪に向けた「おみやげ用ヨット模型」が好調だ。1月からすでに30隻売れているという。

同社は漁船をメインとする超精密船舶模型を展開する企業。「地元で行われる五輪競技を盛り上げたい」（戸倉徳治代表）と今回の模型を製作した。価格はSサイズ1980円（税込）、Mサイズ2500円（同）。

現在、市内のみやげ物屋3店舗で取り扱っているが、セーリング種目が開催される江の島ヨットハーバー付近にも販路を広げ、訪日外国人に対し「五輪の思い出の品」として買ってもらう考えだ。

平均年齢81歳の職人集団 創業16年目を迎える宝船堂は、なんと平均年齢81・5歳で4人の職人集団。戸倉代表は、もともと航空機部品メーカーでフライトレコーダーなどを設計していた元エンジニア。実家が茅ヶ崎で船宿を営んできたため、小さいころから漁船を見

て育ってきたという。昔から趣味で漁船の模型を作っていたというが、その出来栄が素晴らしく、漁師たちの口コミで注文が増え、退職後の2004年に創業した。

写真をベースに船体から見える限りの全てのパーツを縮尺計算し、設計図を起こす。船体加工用の金型を自ら作る場合もある。材質は船で実際使われている繊維強化プラスチック（FRP）。

「漁師はみんな借金をして数千万の船を買います。それを生業（なりわい）としている漁師の思い出が詰まった船だからこそ、『本物に近い』と喜んでもらえるものを作りたいので」と戸倉代表。

そんな戸倉代表らが手掛けたおみやげ用ヨット。「海を超えて海外に渡ってほしい」と、年間100隻の販売を計画している。



宝船堂

スポット利用も可能

横浜の海が一望

社葬を行う対象は誰か、どこまで連絡すべきなのか、まとめ役はどの部署で担うか、会社がどこまで費用を負担するのかなどです。

重要な役割を担う社葬を効果的に活用するならば、危機管理として万が一に備え、事前に準備しておくことが、会社としてできるリスクマネジメントでもあり、ご家族や故人に最後まで寄り添える企業となるでしょう。

準備もなしに、そのときが来たらでは対応が間に合わず、最悪の事態を引き起こしてしまいかねませんので、みなさまもこの機会にご検討してみてください。（清水誠葬具店副社長・清水ふじ代）

神奈川県立図書館…横浜市西区紅葉ヶ丘9-2	川崎市立中原図書館…川崎市中原区小杉町3-1301
相模原市立図書館…相模原市中央区鹿沼台2-13-1	鎌倉市中央図書館…鎌倉市御成町20-35
相模原市立相模大野図書館…相模原市南区相模大野4-4-1	大和市立図書館…大和市大和南1-8-1
相模原市立橋本図書館…相模原市緑区橋本3-28-1	海老名市立中央図書館…海老名市めぐみ町7-1
横浜中央図書館…横浜西区老松町1	厚木市立中央図書館…厚木市中町1-1-3
座間市立図書館…座間市入谷3-5873	町田市立図書館…東京都町田市原町田3-2-9
綾瀬市立図書館…綾瀬市深谷中1-3-1	藤沢市総合市民図書館…藤沢市湘南台7-18-2
	秦野市立図書館…秦野市平沢94-1